様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23　年　6　月　15　日現在

機関番号：12601
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2008～2010
課題番号：20300091
研究課題名（和文）　テレビ・コンテンツ分析の情報記号論的研究と批評プラットフォームの制作

研究課題名（英文）　Information Semiotics Approach on TV analysis and Digital Critique Platform

研究代表者 石田　英敬（ISHIDA　Hidetaka）
東京大学・大学院情報学環・教授

研究者番号：70212892

研究成果の概要（和文）：
本研究では、IT 環境上に批評プラットフォーム「Critical PLATEAU」の制作を行うことで大規模なテレビ番組アーカイブと結びついた実証研究を行い、テレビ・コンテンツの「意味批判の知」（＝「批評の知」）を構造化してアーカイブ学と結びつけ、テレビ番組デジタル・アーカイブの理想的な構想と構築のための「情報の組織化」に役立てる研究である。情報技術（IT）が生み出すセミオーシス（記号過程）を認識論的モーメントとして学問体系に組み込むことをめざす＜情報記号論 Information Semiotics＞の新しい展開であり、その成果は次の三つの次元からなる。

(1)情報記号論にもとづく「テレビ・アーカイブ学」の定式化

フーコーの「知のアーカイブ学」の枠組みを情報記号論の基礎理論に適用して、情報記号論にもとづく「テレビ・アーカイブ学」の理論パラダイムを生み出す研究が行われた。テレビ記号論に、「通時態的研究」への道が開かれた。

(2) TV アーカイブ分析のための批評プラットフォーム「Critical PLATEAU」の制作

1)ハイパーメディア型理論事典「テレビ分析の知恵の樹」、2)映像分析アノテーション・ツール「Lignes de temps」、3) トピックマップ技術による概念ネットワーク共有システム「知のコンシェルジェ」をテレビ・コンテンツ分析のための「批評の道具（Critical Devices）」と位置づけ、これらをモジュールとした IT 上の統合的な分析環境である批評プラットフォーム「Critical PLATEAU」を設計し制作した。

(3) TV 放送アーカイブと結びついた TV 分析の実証研究

この批評プラットフォーム「Critical PLATEAU」を使用してフランス INA および NHK アーカイブスの協力のもとに、ドキュメンタリー番組を対象にアーカイブ番組分析の実証研究を行った。

研究成果の概要（英文）：
This is a “Information Organization” study to conceive an ideal architecture for TV digital archives. For this purpose, was constructed a digital critique platform named “Critical PLATEAU”: a experimental IT based system which links the knowledge base on “semantic critique” to a TV broadcasting programs archive. This approach of “Information Semiotics” aims to integrate IT semiosis’s epistemological moment to the sake of semantic analysis of media content. The project has three dimensions.

1 Theoretical research on “TV archives” based on Information Semiotics:

With adoption of theoretical framework of Foucault’s “archeology of knowledge” for Information Semiotics, a theoretical new paradigm of “TV archives studies” was formulated which opens a “diachronic studies” perspective of TV semiotics.

2 Construction of a “Critical PLATEAU” platform for TV archive:

Was conceived and created a digital critique platform “Critical PLATEAU” composed of three “Critical Devices”: 1) a hypermedia encyclopedia “Tree of knowledge for TV analysis”; 2) a digital annotating system “Lignes de Temps”(IRI Centre Pompidou); 3) a Topic Map system for sharing knowledge “Knowledge Concierge”(Hitachi Solutions).

3 Experiences on TV broadcasting programs archives:

Were made series of experiences on TV archives with utilization of the Critical PLATEAU. These studies were realized in collaboration with INA and NHK.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	8,200,000	2,460,000	10,660,000
2009 年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2010 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
年度			
総　計	15,000,000	4,500,000	19,500,000

研究分野：情報学・記号学
科研費の分科・細目：図書館情報学・人文社会情報学
キーワード：　(1) 記号学 (2) 情報学 (3)情報記号論(4) ハイパーメディア (5) テレビ研究 (6)メディア研究 (7) 人文系情報学 (8) アーカイブ

１．研究開始当初の背景

本研究は、H.17-19 科学研究補助金基盤研究(B)「テレビ・コンテンツ分析の情報記号論的研究とハイパーメディア型事典の作成」（課題番号 17300080　研究代表者 石田英敬）の研究成果をさらに発展させて、テレビ・コンテンツ分析の情報記号論的研究を体系化し、ハイパーメディア型理論事典「テレビ分析の知恵の樹」（石田英敬研究室制作）のシステムを発展させて、IT 環境上にテレビ番組アーカイブとリンクし複数の「批評モジュール」から構成されるコンテンツ分析の批評プラットフォーム「Critical PLATEAU」の制作を行うものである。

世界の高等研究教育機関において Cyberculture や Information の研究は人文系とされてきた Humanities の研究教育の一部となりつつある。情報記号論の認識論的要請も、新しい潮流となりつつある。本研究のように、映像インデキシングやメタデータ付与の技術を応用し、意味分析の研究を前進させる試みは、今や世界的な趨勢となったといえる。本研究のパートナーとなったテレビ番組アーカイブの公開事業で世界をリードするフランス INA（http://www.ina.fr/）の研究機関である INAthèque (http://inatheque.ina.fr/) 及び哲学者 Bernard Stiegler が率いるフランス・ポンピドゥーセンターIRI （リサーチ&イノヴェーション研究所 http://www.iri.centrepompidou.fr/））など、世界の先導的な高等研究教育機関において同種の研究プロジェクトが展開されている。

２．研究の目的

「テレビ分析の知恵の樹」に加えて、テレビ番組の記号分析のための映像解析およびメタデータ付与の批評ツール「タイムライン Lignes de temps」（フランス・ポンピドゥーセンターIRI の開発）を改良して使用し、トピックマップ・システム「知のコンシェルジェ」（日立ソリューションズ社）を知識共有のためのネットワークに採用したうえで、大規模なテレビ番組アーカイブと結びついた実証研究を行い、テレビ・コンテンツの「意味批判の知」（＝「批評の知」）を構造化してアーカイブ学と結びつけ、テレビ番組デジタル・アーカイブの理想的な構想と構築のための「情報の組織化」に役立てる研究である。テレビを始めとする現代日本の映像文化の主要ジャンルに関して、情報技術に媒介された批評の方法を確立し、情報記号論の立場からのテレビ・コンテンツ分析の知識の構造化を行うことが目標である。

３．研究の方法

情報記号論の最大特徴は、情報学における Human-Computer Interaction や Knowledge-based systems 研究と研究協力し情報技術の認知的ポテンシャルを生かした研究環境を構築することによって、メディアの記号過程の実証研究を蓄積していく研究方法にある。本研究は情報記号論の研究方法を発展させ、テレビ番組コンテンツ分析のトータルな批評プラットフォームを設計・実装することをめざすものである。

本研究の研究方法の基軸となるのは、テレビ番組アーカイブ用批評プラットフォーム

「Critical PLATEAU」の制作である。

番組アーカイブの分析のための批評プラットフォーム「Critical PLATEAU」の形成

大規模なテレビ番組アーカイブとリンクした IT 上の批評プラットフォーム「Critical PLATEAU」を形成する。それを構成するモジュールとして、❶「テレビ分析の知恵の樹」を発展させた「理論百科モジュール」、❷「タイムライン」をテレビ番組分析用にカスタマイズした「分析批評モジュール」、❸「知のコンシェルジェ」を応用した「知識検索モジュール」、❹テレビ番組アーカイブが提供する「番組検索モジュール」、をそれぞれ左図のように配置する。これらのモジュールからなる IT 上の批評プラットフォームが「Critical PLATEAU」である。

４．研究成果

(1)　「新しい＜記号の学＞」の提唱

「Critical PLATEAU」研究の理論的成果として、研究代表者の石田は、現代記号学を刷新する「新しい＜記号の学＞」の提唱にいたった。「情報記号論」の新知見の概念ネットワーク、および「テレビのアーカイブ学」の概念ネットワークをコンピュータサーバー上に構築実装し、東京大学のサーバーからアクセス可能とした。このシステムを使用して、実証実験として、東京大学教養学部前期課程科目「記号論」東京大学大学院情報学環・学際情報学府「文化人間情報学基礎 II」、同「情報記号論」の講義を実施した。

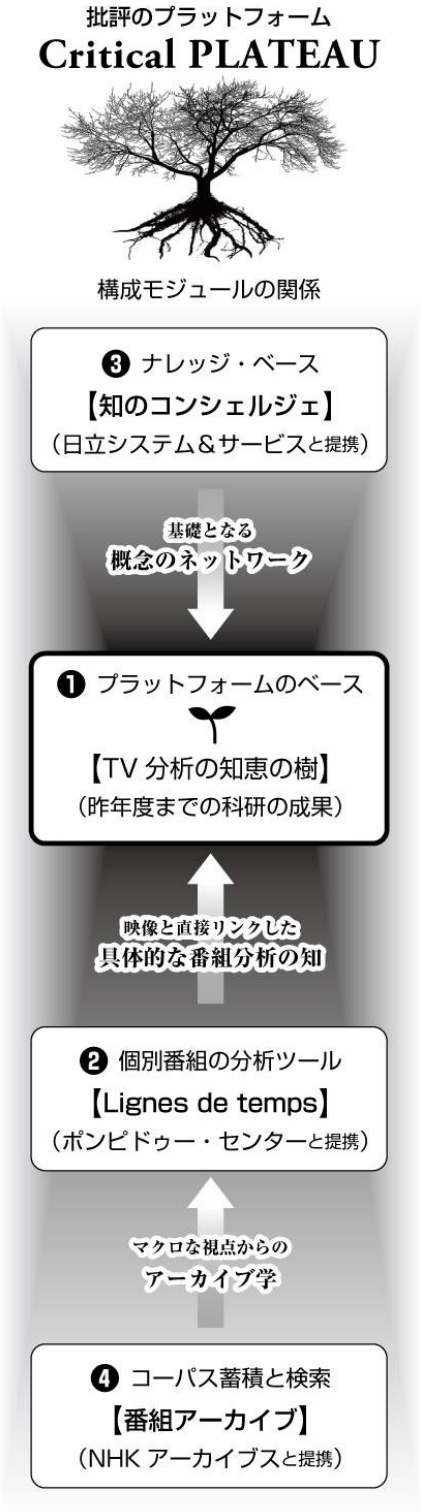
(2)　「批評プラットフォーム」開発

日立システムアンドサービス社が開発したトピックマップの技術による知識マネージメントシステム「知のコンシェルジェ」とポンピドゥーセンターIRI 開発のメタデータ付与ソフト「Lignes de temps」を連動させる技術環境を開発した。

これに「テレビ分析の知恵の樹」に加えて、大規模アーカイブに結びつけて、テレビ・アーカイブにもとづく「批評」を行いうるプラットフォームを作成して、フランスの INA、NHK アーカイブス、同放送文化研究所、IRI を結んで「クリティカル・プラトー」の実験デモを含む 2010 年 6 月のポンピドゥーセンターIRI において研究成果発表ワークショップを実施した。

(3)　「新しい批評」の可能性

今回の研究で開拓されたのが、情報記号論にもとづく「テレビ・アーカイブ学」の体系化と、「新しい批評」の可能性である。番組というフローな放送コミュニケーションに対して、ストック化されヴァーチャル化された番組のメディア・テクスト層の研究は、いったい何を教えてくれるのか。どのような方法によってそれは研究しうるのか。テレビ文化の「記憶」のレベルに、方法論的なメスを入れる研究である。理論的には、石田が長年取り組んできたフーコーの言説理論である「知のアーカイブ学」のパラダイムを応用することによって、「アーカイブ学」の情報記号論的パラダイムを生み出すことがめざされた。個々の番組コンテンツの生産と視聴を支えている、集団的記憶のメカニズム、番組視聴の「期待の地平」の成立の仕組みの理論的定式化である。この作業を通して、共時態的研究に基本的にとどまっていたテレビ記



号論の研究に、通時態的研究の見通しを与える可能性が射程に入ってきたと考えられる。

個別の番組分析研究の蓄積から理論知見を抽出するハイパーメディア型理論事典ツール「テレビ分析の知恵の樹」を基盤技術（「TV 分析の理論/実践モジュール」）に、ポンピドゥー・センターIRI と共同研究を行っている映像分析アノテーション・ツール Lignes de temps を組み合わせ（「分析モジュール」）、さらにトピック・マップ技術「知のコンシェルジェ」を使った概念ネットワークの可視化システム（「概念知識検索モジュール」）を結びつけることによって、個別の番組の具体的で微視的な映像・音声の解析にもとづくメディア・テクストの分析と、記号論の理論概念の体系を結びつけ、知見を蓄積しつつ理論を「育てる」ことが可能となった。さらにこの分析環境を NHK アーカイブスのような巨大な映像アーカイブの検索システム（「番組検索モジュール」）と結びつけることで、「映像インデキシング」やメタデータ付与にもとづく「番組分析モジュール」と、「理論概念の体系化」と「共有」を一つの連続的な行程とする「批評システム」を構想することが射程に入った。

IT の/による記号論である「情報記号論」にもとづくテレビコンテンツの分析研究は、批評パラダイムの転換、アーカイブを使ったコンテンツ研究に道を拓くものであり、その将来的応用性は極めて高いと言うことができる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 23 件）

A 研究報告

1 石田英敬・中路武士・谷島貫太（共同研究報告書）「知の共有へ向けて -- ＜認知テクノロジー＞としての＜知のコンシェルジェ＞」、（株式会社　日立システムアンドサービス）、2009 年 10 月刊行、31 頁

2 石田英敬（共同研究報告書）「テレビ・アーカイブ研究とは何か」『放送研究と調査』（NHK 放送文化研究所），July 2009, pp.32-33

3 石田英敬・西兼志・中路武士・谷島貫太　（共同研究発表）　「批評プラットフォーム＜クリティカル・プラトー＞」、『情報学研究：東京大学大学院情報学環紀要』、No.79, 2010 年 11 月、pp.1-46

4 石田英敬（研究報告書）「テレビ番組アーカイブ研究の現在」、『日本脚本アーカイブズ調査・研究報告書 VI 平成 22 年度』、社団法人　日本放送作家協会　pp.17-19

B 雑誌論考

1 石田英敬（雑誌論考）「公共空間の再定義のために（１）二〇〇八年の政治メディア状況」、『世界』、岩波書店、No.779, 2008 年 6 月号, pp. 71-80

2 石田英敬（雑誌論考）「公共空間の再定義のために（2）回帰する社会」、『世界』、岩波書店、No.780, 2008 年 7 月号, pp. 103-112

3 石田英敬（雑誌論考）「公共空間の再定義のために（3）新しい社会契約・新しい公共性」、『世界』、岩波書店、No.781, 2008 年 8 月号, pp.79-88

4 石田英敬（雑誌論考）「公共空間の再定義のために(4)公共空間を編み直す」、『世界』、岩波書店、No.781, 2008 年 9 月号, pp. 112-121

5 石田英敬（雑誌論考）「＜笑う＞タレント知事とポピュリズム」、『論座』、朝日新聞社、2008 年 9 月号、pp.57-63

6 石田英敬（雑誌論考）「雄弁は復権するか」『世界と議会』、尾崎行雄記念財団、2008 年 12 月号、pp.9-14

7 石田英敬（雑誌論考）　「瀕死の『人文知』の再生のために: 教養崩壊と情報革命の現場から」、『中央公論』、中央公論新社, 2009 年 2 月号、pp. 52-59

8 石田英敬（雑誌　巻頭言）　「伝えられずにはいられない」、『Mobile Society Review 未来心理』、 2009 年 3 月　Vol. 15 NTT モバイル社会研究所,　pp.004-005　巻頭言

9 石田英敬（雑誌論考）「『雄弁』は復権するか - アメリカ大統領選挙にいるメディアと政治」、『財団法人　明るい選挙推進協会　平成２０年度中央研修会講演録』（財団法人明るい選挙協会）、平成２１年７月, pp. 5-42

10 石田英敬（雑誌論考）「『生政治』からみた政権交代」、『世界』、岩波書店、No.799 臨時増刊号「大転換」, 2009 年 12 月号 1 日発行, pp. 37-44

11 柏倉康夫、ジャン=ミシェル・ロード、桜井均、藤幡正樹、石田英敬（雑誌対談）　「デジタル映像アーカイブの可能性」『放送研究と調査』（NHK 放送文化研究所），July 2009, pp.36-43

12 石田英敬（雑誌論考）「ネットと選挙：期待される新しい政治コミュニケーションの到来」、『私たちの広場』（財団法人 明るい選挙推進協会）、No.309、2009 年 11 月 30 日発行、pp.12-14

13 石田英敬、牧野二郎、真木正喜（雑誌対談）「インターネットは私たちを「賢く」したのか：情報技術がもたらした知の構造と社会領域の変化」、季刊『プロワイズ』（日立システムアンドサービス社）、vol.17 Winter 2010 pp. 06-11

14 ベルナール・スティグレール、石田英敬（雑誌対談）「二〇世紀型「消費主義」が終わった：象徴的貧困と資本主義の危機」（聞き手、解説　訳　石田英敬）、『世界』、岩波書店、No.802, 2010 年 3 月号, pp. 178-185

15 石田英敬（展覧会カタログ）「時の隕石体としての絵画」カタログ『松谷武判展』一〜二頁　椿近代画廊 2010 年 4 月

16 石田英敬（雑誌論考）「インターネットと人権：グーグルストリート・ビュー問題を中心に」、『部落解放』、解放出版社、624 号、2010 年増刊号「部落解放・人権入門 2010」、pp.58-71

17 石田英敬（雑誌論考）「『言論による政治』は復権するか - ネットの時代と民主主義」、『民主主義教育 21』別冊「政権交代とシティズンシップ」同時代社、2010 年 6 月

18 Hidetaka Ishida（雑誌論考）《 Vent d’Ouest 》, L’Herne《 Foucault 》, éd. L’Herne, mars 2011, pp.232-236

19 石田英敬、金泳徳、今野勉（雑誌対談）「テレビ文化と web 文化：文化リサイクルの観点から、その可能性を探る」、『文化はめぐる：文化アーカイブズ活性化シンポジウム』、社団法人　日本放送作家協会　日本脚本アーカイブズ特別委員会、平成 23 年 1 月 27 日刊

〔学会発表〕（計 12　件）

1 Hidetaka Ishida（招待講演）《 Ecriture japonaise de Roland Barthes 》。Rencontre INA-Sorbonne 《 Empreintes de Roland Barthes 》, le 13 juin 2008, Salle Louis Liard

2 Hidetaka Ishida（基調講演）“Le Malaise dans la civilisation :Réflexions sur la《 modernisation sans la modernité 》”, Nouveau Siècle, Lille, France, Le huitième congrès international de la Société Française des Études Japonaises (SFEJ) 《 Modernité japonaise en perspective》 150ème anniversaire des relations franco-japonaises 18 - 19 - 20 décembre 2008

3 石田英敬（シンポ組織）シンポジウム 「知の公共性をデザインする： 認知テクノロジーがひらく知の地平を問う」2009 年 1 月 29 日　東京大学・情報学環・福武ホール

4 石田英敬（招待講演）「デジタル化時代に公共圏を再定義する」2009 年 2 月 21 日　研究会「メディア公共圏と現代民主主義」講演 法政大学　ボアソナードタワー

5 石田英敬（招待講演）　「雄弁は復権するか　：　アメリカ大統領選挙にみるメディアと政治」2009 年 3 月 5 日　明るい選挙推進協会全国研修会講演 アルク半蔵門

6　石田英敬（基調講演）「テレビ研究とテレビアーカイブ」国際シンポジウム「映像アーカイブはテレビを拡張する」NHK 放送文化研究所　2009 年３月１１日

7 石田英敬（基調講演）　「インターネットと人権-グーグル・ストリート・ビュー問題を中心に」 第４０回部落解放・人権夏期講座 部落解放・人権夏期講座実行委員会主催
２００９年８月１９日（水）
和歌山県高野山町(高野山大学)

8 Hidetaka Ishida（基調講演）《 Aims and Ideals of the Interfaculty Initiative in Information Studies 》 (Keynote Speech) 80th Anniversary Journalism School Shanghai Fudan University October 31 2009 Shanghai Fudan University

9 石田英敬（招待講演）「啓蒙とは何か？：普遍的知識人のエートスについて」
TABLE RONDE INTERNATIONALE ：《 KATÔ SHÛICHI OU PENSER LA DIVERSITÉ CULTURELLE 》 Le 12 décembre 2009 Maison de la Cutlure du Japon Paris

10 石田英敬（シンポ組織）連続シンポジウム「メディア・アートとは何か？」東京大学大学院情報学環・東京藝術大学大学院映像研究科　主催
　第一回 2009 年 7 月 25 日、第二回 9 月 26 日、第三回 10 月 10 日　東京大学・情報学環・福武ホール

11 石田英敬（シンポ組織）東京大学大学院

情報学環×朝日新聞社シンポジウム
「筑紫哲也との対話――没後１周年」2009 年 11 月 3 日　東京大学福武ホール

12 石田英敬(基調講演)　2010 年 11 月 2 日 文化アーカイブズ活性化シンポジウム
『文化はめぐる－脚本アーカイブズとデジタル化』 日本放送作家協会 + 東京大学大学院情報学環主催 東京芸術センター　天空劇場

〔図書〕（計　８件）
1 Hidetaka Ishida（分担執筆単行本）《 Hiroshima à la télévision japonaise : Entre mémoire et oubli 》, in Les dénis de l’histoire : Europe et Extrême-Orient au XXème siècle, sous la direction de Pierre Bayard et Alain Brossat, éd. Laurence Teper, août 2008, 394p. pp. 123-135

2 Hidetaka Ishida（分担執筆単行本）《 L’écriture japonaise de Roland Barthes 》, in Empreintes de Roland Barthes, sous la direction de Daniel Baougnoux, éd. Cécile Défaut / INA, 2009, pp. 85-95

3 石田英敬（分担執筆単行本）　『高校生のための東大授業ライブ 純情編』、東京大学教養学部編、第五講「モバイル・メディアと意味のエコロジー」、pp.64-78 を分担執筆、東京大学出版会 224 頁、2010 年 3 月 31 日刊

4 石田英敬（分担執筆単行本）「『グーグル・ストリートビュー問題』とは何か」、『「インターネットと人権」を考える』、（社） 部落解放・人権研究所編　解放出版社、2009 年 3 月、pp.137-145

5 石田英敬 監修 西兼志　訳（監訳書単行本）ベルナール・スティグレール　『技術と時間 1 エピメテウスの過失』、法政大学出版局、435 頁、2009 年 7 月刊

6 石田英敬（単著単行本）　『現代思想の教科書：世界を考える知の地平１５章』、ちくま学芸文庫、筑摩書房 384 頁　2010 年５月１０日刊

7 石田英敬（単著単行本）　『自分と未来のつくり方：情報産業社会を生きる 』、岩波ジュニア新書、岩波書店 196 頁　2010 年 6 月 18 日刊

8 石田英敬 監修 西兼志　訳（監訳書単行本）ベルナール・スティグレール　『技術と時間 2 方向喪失』、法政大学出版局、410 頁、2010 年 7 月刊

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.nulptyx.com/
http://www.gakkanfellows.com/?p=365
http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/professor.php?id=345

６．研究組織
(1)研究代表者
石田　英敬　（ISHIDA HIDETAKA　）
東京大学・大学院情報学環・教授
研究者番号：70212892

(2)研究分担者
吉見　俊哉　（YOSHIMI SHUNNYA）
東京大学・大学院情報学環・教授
研究者番号：40201040

(3)連携研究者
原　弘之　（HARA HIROYUKI）
明治学院大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：30350276

(4)連携研究者
水島　久光（MIZUSHIMA HISAMITSU）
東海大学・文学部・教授
研究者番号: 30366075